

舞台用語辞典

ことば	よみ	意味
1 明かり合わせ	あかりあわせ	照明仕込みが終わった後、実際に照明を点灯してチェックすること。
2 アゴアシ	あごあし	アゴが「食事代」、アシが「交通費」を言う。交通費は「現地交通費」とは別で、現地交通費は会場近くの駅から会場までのタクシー代を言う。
3 アッパーホリゾントライト	あっぱーほりぞんとらいと	ホリゾント幕に上から照射するライト。「アッパーホリ」とも言われる。
4 アテブリ	あてぶり	歌っているふりや演奏するふりのこと。クチパクやエアー演奏などとも言う。
5 暗転	あんてん	演目の場面転換時に舞台照明を消す照明効果こと。青黒くする転換、ブルー暗転というものもある。
6 暗転幕	あんてんまく	場面転換に使用する緞帳の後ろにある黒い幕のこと。
7 生かす	いかす	照明、音響など電気機器の電源が入ること。
8 板付	いたつき	開演した時(緞帳が上がった時)、場面を転換したときに、演者が既に所定の舞台上にいること。
9 一ベル	いちべる	間もなく開演することを知らせるベル。開演3分前に鳴らすことが一般的。
10 一文字幕	いちもんじまく	舞台横間口全体に広がる横に細長い黒幕。舞台上部の吊物を各席から隠すためにある。
11 入り	いり	入り時間の略。出演者やスタッフが会場に到着すること。
12 色物	いろもの	本来の演技ではなく小ネタや、おかしい動作、性格などを中心に見せる役者や、曲芸、漫才、奇術などの事。落語の寄席などで、落語家の看板は黒の墨で書かれるが、曲芸、漫才、奇術などは朱色の文字で名前を書く事や本来の出し物に色取りを添える事からこの名前がついたらしい。
13 インカム	いんかむ	舞台袖、音響室、照明室などと舞台スタッフが連絡用に使うイヤホン付きマイクのこと。
14 イントレ	いんとれ	スピーカーや照明機器を乗せたりする鉄の足場のこと。野外ステージなどでよく使用される。
15 ウォールスピーカー	うおーるすぴーかー	客席の両側の壁に設置してあるサラウンド用スピーカー。
16 裏方	うらかた	幕の裏側(舞台裏)で働く出演者を除いた舞台美術、音響、照明、衣装、メイク、など舞台関係者の総称を言う。
17 エアモニター	えあもにたー	客席の壁に設置してある客席側からの音を集音するためのマイク。「エアモニ」と言われる。会場内の様子を調光室や楽屋、ホワイエ、ロビーなどで確認するための音声のこと。

舞台用語辞典

ことば	よみ	意味
18 MC	えむしー	「Master of Ceremonies」の略で、司会者のこと。一般的には、コンサートなどの曲間での喋りを指すことが多い。
19 大黒幕	おおぐろまく	舞台正面最奥にある、舞台全面を黒くするための一枚幕。この幕の後ろはコンクリート壁だけになる。
20 オーケストラピット	おーけすとらぴっと	オペラやバレエで、舞台と客席の間でオーケストラが演劇に合わせて演奏する一段下がった空間。「オケピ」と言われる。
21 大道具	おおどうぐ	舞台美術で、建物や木など比較的大きなものを言う。
22 おす	おす	開演を遅らせること。催事の進行が遅れること。お客様の入場具合や天候などの諸事情で、意図的に3～5分「おす」ことが多い。
23 音だし	おとだし	スピーカー設置と配線が終わった後、音のチェックをすること。
24 音響卓	おんきょうたく	マイク、CD、MD、カセットなどから出てきた音信号の調整(オンオフ、音量、加工、など)する機器。
25 開演	かいえん	催事が始まること。
26 会館	かいかん	コンサートホールや劇場などの総称。小屋(こや)とも言う。その施設に常駐のスタッフを小屋付きとも呼ぶ。
27 開場	かいじょう	お客様を客席に入れること。
28 回路取り	かいろとり	照明回線を繋ぐこと。
29 かえし	かえし	モニタースピーカーのこと。舞台上に音を聞かせるため、舞台方向に向いているスピーカー。
30 カゲアナ	かげあな	お客さんから見えない所で行われるアナウンス。舞台袖で行われる。
31 影板	かげいた	開演した時(緞帳が上がった時)に舞台袖から出てくること。
32 がなりマイク	がなりまいく	通称「がなり」。リハーサル時など、演出家などが客席から舞台上の役者に指示を出すために使うマイクを指す。
33 上手	かみて	客席から舞台を見て右側を言う。
34 カラムスピーカー	からむすぴーかー	大臣柱(舞台額縁の左右の柱)の横に客席に向けて取り付けられているスピーカー。

舞台用語辞典

	ことば	よみ	意味
35	ガリ	がり	ボリュームを変えるときにガリガリと音がする状態を言う。電氣的雑音の一種。
36	ガンマイク	がんまいく	超指向性マイクロフォンのこと。形状が銃に似ているのでこう呼ばれる。
37	消え物	きえもの	飲食物やたばこ、芝居中で壊すものなど、再び使用できない小道具のこと。
38	木台	きだい	平台を高くするときに土台として使う、木の角材。サイズは三寸×三寸×一尺。
39	きっかけ	きっかけ	役者の動きやセリフ、舞台進行や音響、照明操作などのタイミングを知らせる合図のこと。キュー(cue)とも言う。
40	キャバ	きゃば	キャバンティ어의略。ホールや劇場などの座席数や収容人数の意味。
41	ケータリング	けーたりんぐ	楽屋に並べるお菓子、飲食類、お弁当。
42	蹴込み	けこみ	平台を組み上げた時に出来る隙間を隠す板のこと。
43	結線	けっせん	音響機器などをケーブル等で繋ぐこと。
44	ゲネプロ	げねぷろ	本番と同じ条件で行う通し稽古のこと。Generalprobe(独)ゲネラルプローベの略。
45	小屋	こや	ホールや劇場のこと。会館とも言う。
46	ころす	ころす	一時的に動作不可能な状態にしてしまうこと。又は、舞台装置や大道具などの可動部分を動かさないように固定してしまうこと。
47	サウンドチェック	さうんどちえっく	スピーカーから出る音をチェックしたりチューニングしたりすること。
48	サスペンションライト	さすぺんしょんらいと	ライトを取り付ける舞台吊物機構とその照明を言う。「サス」とも言われる。
49	残響	ざんきょう	部屋の中で手をたたいたり、楽器やスピーカーの音を急に止めたりすると、しばらくの間残っている「音の響き」のこと。音波が壁、天井、床などで何度も反射を繰り返して、音のエネルギーが残っている状態を言う。クラシックでは残響が2秒前後あると心地よく聞こえるが、演劇や映画で残響が2秒もあると、台詞が聞き取りづらくなる。
50	三点吊りマイク	さんてんづりまいく	3本のワイヤーでマイクを吊り下げる装置のこと。ホール客席前部の天井に設置されており、クラシック音楽の録音のメインマイクやエアモニターマイクなどに使用される。
51	シーリングライト	しーりんぐらいと	客席の天井部に設置されて、舞台を正面から照らす固定ライト。「前明かり」とも言われる。

舞台用語辞典

	ことば	よみ	意味
52	仕込み	しこみ	音響、照明、美術、大道具などの準備・セッティングのこと。
53	仕込図	しこみず	舞台、音響、照明などの仕込み(準備)のために書かれた舞台図面のこと。
54	鎮子	しず	吊り物バトンとバランスをとる金属の黒い平らな重り。カウンターウェイトが本来の呼び名。
55	死ぬ	しぬ	照明、音響など電気機器の電源が入らなくなること。
56	下手	しもて	客席から舞台を見て左側を言う。
57	尺貫法	しゃっかんほう	舞台の世界ではメートル法でなく尺貫法が一般的に使用される。 1間(けん)=6尺(しゃく)=1.82m、1尺=10寸(すん)=30.3cm、1寸=10分(ぶ)=3.03cm。 1間は180cm、1尺は30cmでとらえておけばよい。
58	紗幕	しゃまく	目が粗く透ける布地の白い幕。紗幕前(紗前)から照明を照らすと裏が見えないが、紗幕後ろ(紗奥)から照明を照らすと紗幕が透けて後ろにあるものが浮かび上がる。
59	終演	しゅうえん	催事が終わること。
60	シュート	しゅーと	照明を当てる位置合わせをすること。
61	上敷	じょうしき	畳の表面のようなもの。一般的には「ござ」と言われる。3尺(90センチ)幅のものが多く、筒状に巻いてあり伸ばして使う。セットで畳代わりに使ったり舞台袖で着替えたりする時に使う。
62	照明仕込み	しょうめいしこみ	照明プランの図面を基に、機器を設置しカラーフィルターなどを入れ替える作業。
63	照明プラン	しょうめいぷらん	演目、演出に適した照明機器の配置や照明のカラーフィルターを決定して、場面ごとのデザインを決めること。
64	所作台	しよさだい	歌舞伎、狂言能や日本舞踊など、日本の伝統芸能の舞台面に使用される檜の平台。檜の白木なので見た目に美しく、1枚が非常に高価。衣裳の履物、足袋以外でこの上に乗らないことが常識で、所作台を動かす時には白い手袋を使用し、手垢や汗が付かないようにする。
65	ステージマネージャー	すてーじまねーじゃー	「ステマネ」とも言う。裏方を統轄し、舞台進行をコントロールする舞台現場の最高責任者。(=舞台監督)
66	すのこ	すのこ	舞台の天井を指す。ここから舞台装置やバトンなどが吊られている。ぶどう棚ともいう。鉄製。
67	ゼラ	ぜら	照明に色を付けるためのカラーフィルターのことを言う。昔はゼラチンで出来ていたのが「ゼラ」と呼ばれている。現在はプラスチック製(ポリアセテートやポリカーボネイトなど)で作られており、色は種類別に番号で体系化されている。
68	せり出し	せりだし	舞台の前を出して舞台を広げること。

舞台用語辞典

ことば	よみ	意味
69 せり舞台	せりぶたい	舞台上の一部を切り抜いて、その部分を奈落に移動させるエレベーター装置。
70 宣材	せんざい	催事を宣伝するために使用する写真や催事内容のこと。宣伝するための材料の意。
71 操作盤	そうさばん	電動の舞台機構や吊り物の昇降を操作するスイッチなどがある舞台総合操作盤のこと。
72 袖幕	そでまく	舞台脇全体に広がる縦に長いカーテンのような黒幕。舞台袖の見切りを隠すためにある。
73 ソワレ	そわれ	演劇、バレエ、オペラなどの夜間の公演を言う。Soiree(仏)。
74 卓	たく	音響や照明のミキサー卓の略。
75 駄目出し	だめだし	出演者やスタッフの具合の悪い部分を指摘したり、念を押したり、あるいは訂正すること。
76 地がすり	ぢがすり	舞台の床面に敷く黒い布のこと。
77 調光室	ちょうこうしつ	照明の作業をすところ。
78 綱元	つなもと	舞台袖の奥に、吊り物昇降用の引き綱(ワイヤーまたはマニラロープ)がまとめてあるところ。
79 吊り込み	つりこみ	灯体をサスに吊るすこと。
80 吊物	つりもの	すのこから吊られている舞台装置やバトンに吊り込んだ大道具などの総称を言う。
81 吊物バトン	つりものばとん	舞台頭上にあり、舞台演出効果のための道具類を吊り、上下させて演出するための鉄の棒。
82 定時	ていじ	時間通りに始めること。
83 転換	てんかん	ステージ上のセットを変える意味。
84 特殊効果ライト	とくしゅこうからいと	ストロボ(稲妻など)、ディスクマシーン(流れ雲など)などを言う。
85 飛ばす	とばす	舞台装置や幕・照明などが取り付けられたバトンなどを吊り上げて客席から見えなくすること。

舞台用語辞典

	ことば	よみ	意味
86	鳥屋	とや	花道の突き当たりにある入退場するための小部屋。鶏小屋の様子からこの名前がつけられたらしい。
87	トランポ	とらんぽ	トランスポートの略。機材等の運搬、運送の意味。
88	ドロップ	どろっぷ	舞台の間口全体に渡って背景の描かれた幕。
89	緞帳	どんちよう	舞台と客席を仕切る幕のこと。
90	中割幕	なかわりまく	袖幕と同じ縦長の幕だが、舞台中央まで閉じることができ、催事によっては舞台の奥行きを無くしたいときに使う。
91	なぐり	なぐり	「金づち」のこと。
92	奈落	ならく	舞台の床下のこと。
93	人形立て	にんぎょうたて	パネルなど自立できないものを、裏側から支えるために使用する直角三角形の木枠の道具。
94	場当たり	ばあたり	立ち位置や音響、照明などのキッカケ、全体の段取りなどの確認を目的とした舞台稽古のこと。
95	ハウリング	はうりんぐ	マイクをスピーカーに近づけると「キーン！」と鳴るループ現象のこと。
96	はける	はける	よせる、かたづける、の意味。ワラウともいう。
97	箱馬	はこうま	平台を高くするときに土台として使う、木の箱。箱足、馬ともいう。縦、横などの置き方により、いろいろの高さが組めるようにした箱のこと。大きさは1尺×1尺5寸×6寸、1尺×1尺1寸×6寸がある。
98	バトン	ばとん	大道具や照明器具などを吊る鉄パイプ。
99	花道	はなみち	歌舞伎や日本舞踊など、日本の伝統芸能では無くてはならない舞台両脇客席に伸びる細長い舞台。
100	はねる	はねる	催事が終わること。(終演)
101	バミル	ばみる	演技者の立つ位置や大道具、小道具、マイクロホンなどを置く位置に目印をつけること。ビニールテープなどを貼る。蛍光テープや蓄光テープを使うことも多い。
102	ばらす	ばらす	舞台装置を取り除くこと。撤収、片付けを指す。

舞台用語辞典

	ことば	よみ	意味
103	反響板	はんきょうばん	音を反射させて客席に響かせるための舞台上の装置。石膏ボードと鉄枠で出来ており、クラシックコンサートで使う事が多い。正反、天反、側反などがある。
104	pf	ぴあの	ピアノのこと。Pianoforte(伊)の略。
105	PA	ぴーえー	舞台で使われる電気音響システムの総称。「Public Address」の略で、客席に対して小さな音を拡大して明確に伝達する装置のこと。
106	ピッチ	ぴっち	コンサートピッチ(concert pitch)の略。楽曲や演奏の音の高さを統一するために決められた国際標準音。ピアノの音合わせて使われる言葉。標準のAの音を440Hzと決められているが、高めの音程の方が華やかな音色になるので442Hzが一般的。
107	開き足	ひらきあし	平台をより高くするために土台として使う、開いて使う木枠の台。高足(6尺×2尺4寸、4尺×2尺4寸、3尺×2尺4寸)と中足(6尺×1尺7寸、4尺×1尺7寸、3尺×1尺7寸)がある。
108	平台	ひらだい	演奏者、出演者、舞台道具などを乗せるための杉製の台。大きさは3尺×6尺(「さぶろく」とよばれる)、3尺×3尺、2尺×6尺、4尺×6尺、6尺×6尺などが一般的で、いずれも高さは4寸。
109	ピンスポットライト	ぴんすぽとらいと	ピンとも呼ばれる。演者を追いかけて(フォロー)動かしながら照らすライト。電球はクセノンランプを使用する。
110	舞台監督	ぶたいかんとく	「ぶかん」または「ぶたかん」とも言う。裏方を統轄する舞台現場の最高責任者。(=ステマネ)
111	舞台袖	ぶたいそで	客席から見えない舞台両脇の奥の場所。
112	フットライト	ふつとらいと	舞台前の床に置かれる(埋め込まれていることもある)移動ライト。床の正面から演者を照射する。歌舞伎や日本舞踊など伝統芸能で所作台を使う時に使用されることが多い。
113	ふところ	ふところ	舞台上、下手の袖幕の奥のこと。
114	プロセニウム	ぷろせにあむ	舞台と客席を区切る「額縁」の部分。プロセともいう。
115	プロセニウムスピーカー	ぷろせにあむすぴーかー	プロセニウムアーチ中央上部に客席に向けて取り付けられているスピーカー。
116	フロントサイドライト	ふろんとさいどらいと	客席上の両横に設置されていて、舞台を側面から照らす固定ライト。「前明かり」とも言われる。
117	平面図	へいめんず	舞台の平面図面を言う。舞台のサイズ、舞台装置の基本位置が詳細に記載されており、これを基に舞台演出を考える。
118	VO	ぼーかる	歌う人のこと。
119	ボーダーライト	ぼーだーらいと	舞台上部に設置されているライト。作業灯を言う。

舞台用語辞典

	ことば	よみ	意味
120	ホリゾント幕	ほりぞんとまく	舞台正面最奥や中程にある照明を照らすための白い幕。催事のバックを色をつけたいときに使用する。
121	ホワイエ	ほわいえ	ロビー(lobby(英))と同じ意味だが、モギリから客席口までの空間を指す。大きなビルや建物において、入口の近くに設けられる、お客様が歓談できる広いスペースのことを指しても用いられる言葉。「エントランス・ホール」は、玄関口を意味して使われる。foyer(仏)
122	本ベル	ほんべる	開演時に鳴らされるベル。
123	まく	まく	早く、急いで、の意味。催事の進行時間が、予定より早まる(時間が前にシフトする)こと。
124	幕間	まくあい	休憩、インターミッション。「幕の内」ともいう。「幕の内弁当」は、歌舞伎等で休憩時間(幕の内)に食べられた弁当という意味で命名され、江戸時代からあったらしい。
125	間口	まぐち	劇場や舞台の幅。
126	マチネ	まちな	演劇、バレエ、オペラなどの昼間の公演を言う。Matinee(仏)
127	松葉目幕	まつばめまく	老松の絵が書いてある舞台幕(絵が書いてある幕はドロップともいう)。歌舞伎、能狂言など日本の古典芸能で必要な幕。
128	見切れる	みきれる	客席から舞台裏が見えてしまうこと。物陰に隠しておいたものや、隠れている人物が見えてしまうこと。
129	めぐり	めぐり	舞台の横に演目等を表示する看板。高さは約150cm。落語や漫才でよく利用される。
130	モギリ	もぎり	入場者の入場券をチェックして入場させること、またはその係のこと。
131	モニタースピーカー	ものたーすぴーかー	舞台の上に設置する演者のための移動スピーカー。コンサートでは歌手が楽器の音を聴きやすいようにし、演劇、ミュージカル、バレエなどでは音を取りやすくして踊りやすいようにする。
132	リノリウム	りのりうむ	「リノ」とも言う。バレエに適した滑走性と衝撃吸収を得る目的で敷く合成素材の敷物。一般的に幅一間前後の長尺物で、色はグレー。舞台ではこのリノリウムを隙間なく敷き詰め、隙間をテープで張り合わせるが、このテープはリノ(リノリウム)・テープなどと呼ばれる。
133	リハーサル	りはーさる	「稽古」「テスト」とも呼ばれ、本番前の最終的な練習のこと。
134	ローワーホリゾントライト	ろーわーほりぞんとらいと	ホリゾント幕に下から照射するライト。「ローホリ」とも言われる。
135	わらう	わらう	舞台上の物を片付けること。取っ払う(とっぱらう)の略。